

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和7年第50週 (ARIのみ第49週) の発生動向

□ トピックス

・インフルエンザ(定点把握対象疾患)

インフルエンザが前週の約1.6倍、2,798人(定点当たり報告数99.9)となり、1999年からの感染症発生動向調査開始以降で、定点当たり報告数の過去最多を更新した。県内全ての保健所管内で、流行警報レベル開始基準値(30)を超えている。これまでは、2015年第3週(2015年1月12日～18日)の定点当たり報告数99.6が最多であった。詳細後述。

□ 全数報告の感染症 (50 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。
- 2 類感染症：結核 5 例。
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。
- 4 類感染症：つつが虫病 6 例。
- 5 類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1 例、急性脳炎 1 例、梅毒 1 例、百日咳 3 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	都城	60歳代	女	肺結核	なし
			90歳代	女	肺結核	痰
			90歳代	女	肺結核	なし
		延岡	70歳代	男	結核性胸膜炎	痰、発熱、呼吸困難
			90歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	40歳代	男	無症状病原体保有者	なし、O28(VT1)
4類	つつが虫病	宮崎市	60歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹、その他
			80歳代	男	—	発熱、刺し口
		都城	70歳代	女	—	頭痛、発熱、発疹
			70歳代	女	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
		日南	60歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹
		小林	60歳代	女	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
5類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	宮崎市	20歳代	女	—	尿路感染症
	急性脳炎	宮崎市	40歳代	男	<i>Balamuthia mandrillaris</i>	発熱、頭痛、嘔吐、意識障害、髄液細胞数の増加
	梅毒	都城	70歳代	男	無症状病原体保有者	なし
	百日咳	宮崎市	10歳代	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み
			60歳代	男	—	持続する咳
		都城	10歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・第50週の定点医療機関からの報告総数(急性呼吸器感染症除く)は3,105人(定点当たり121.1)で、前週比148%と増加した。

なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎及び伝染性紅斑で、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

また、第49週の急性呼吸器感染症の報告総数は2,775人(定点当たり99.1)で、前週比129%と増加した。

【インフルエンザ】

報告数は2,798人(99.9)で、前週比160%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(6.6)の約15.1倍であった。年齢群別は15歳未満が全体の約8割を占めた。

【伝染性紅斑】

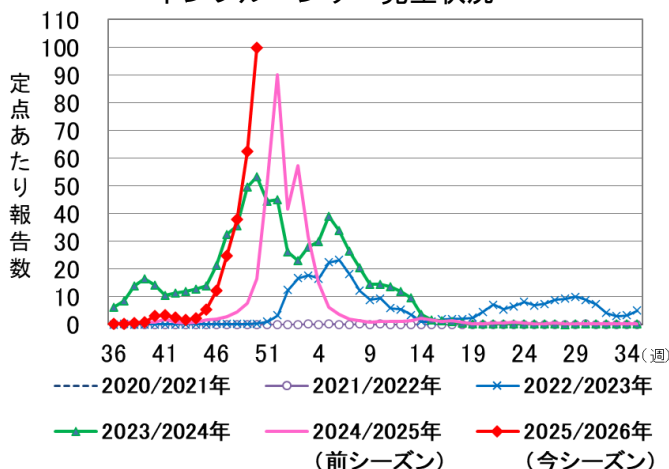
報告数は48人(3.2)で、前週比112%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.67)の約4.8倍であった。年齢群別は3歳から6歳が全体の約半数を占めた。

【感染性胃腸炎】

報告数は115人(7.7)で、前週比106%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(14.6)の約0.5倍であった。年齢群別は5歳から6歳が全体の約2割を占めた。

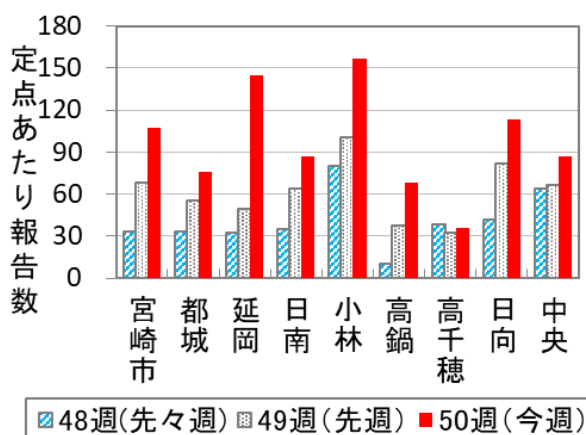
* 新型コロナウイルス感染症流行前5年間(2015—2019)の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

インフルエンザ 発生状況

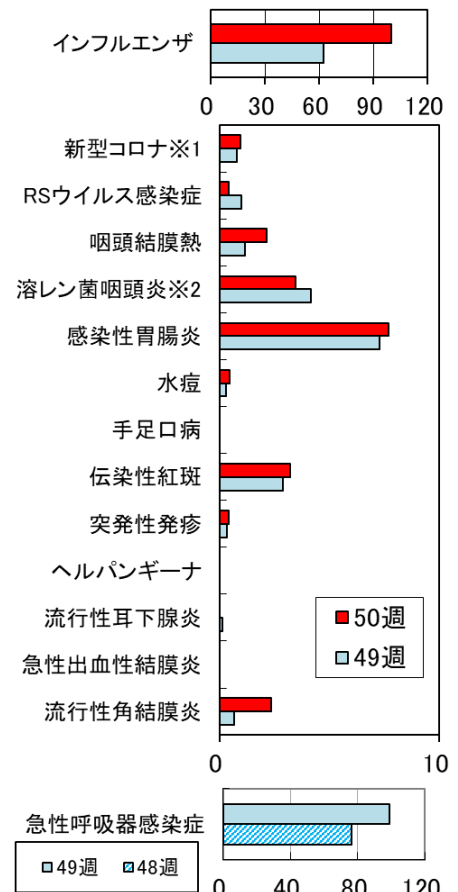


※2025年第15週からは定点医療機関数が58から28に変更

インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



《前週との比較》

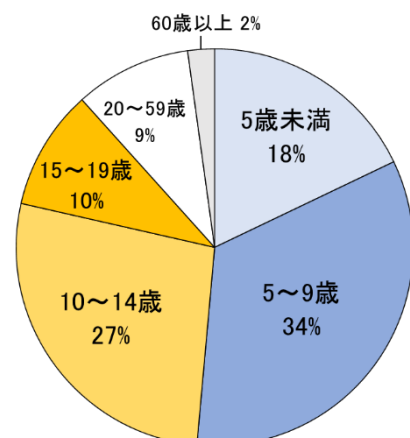


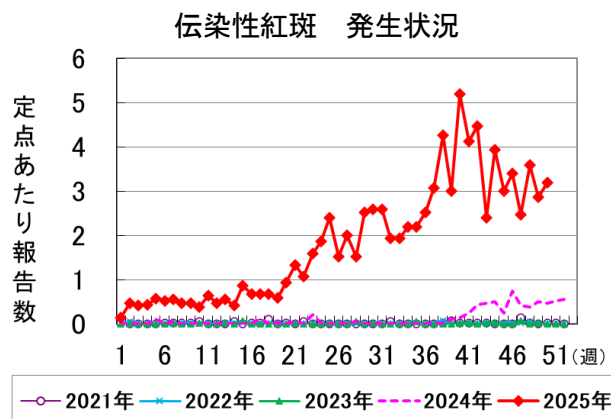
定点あたり報告数

※1 新型コロナウイルス感染症

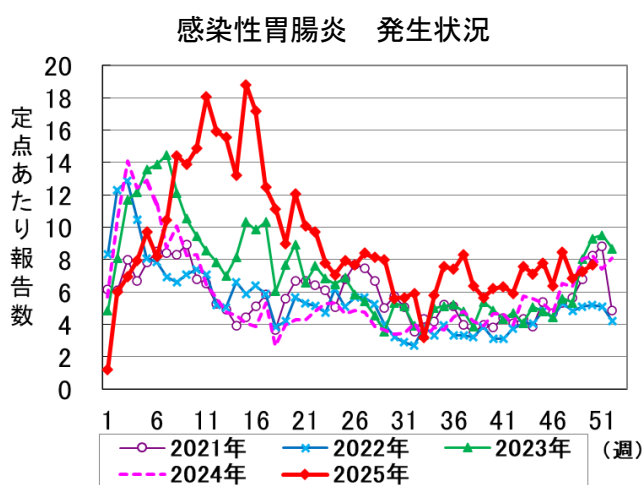
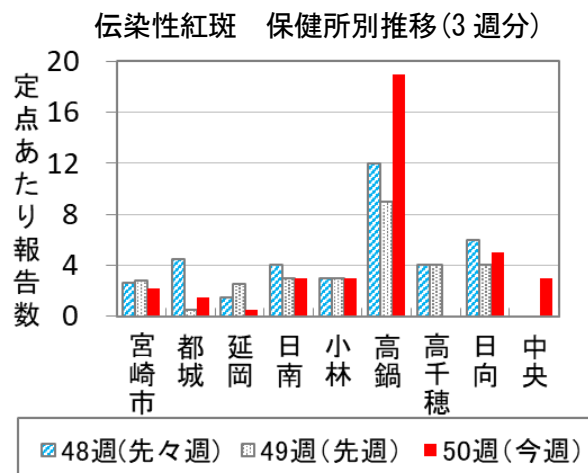
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

インフルエンザ年齢群別グラフ(第50週)

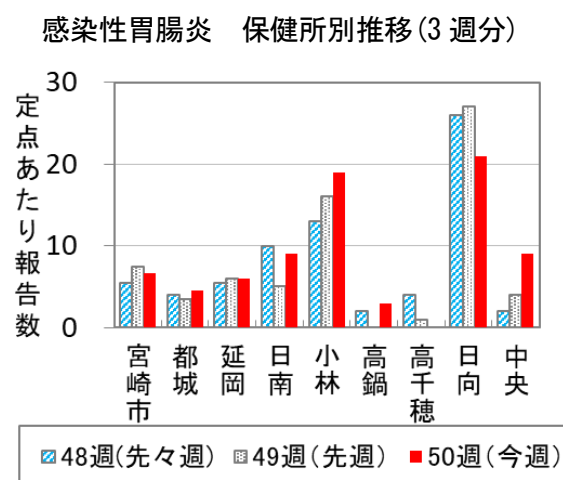




※2025 年第 15 週からは定点医療機関数が 36 から 15 に変更



※2025 年第 15 週からは定点医療機関数が 36 から 15 に変更



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：報告数は1例(定点当たり0.14)で、延岡保健所から報告があった。年齢は10～14歳であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	インフルエンザ(107.7)、咽頭結膜熱(5.6)、水痘(1.4)、伝染性紅斑(2.2)
都城	インフルエンザ(75.5)
延岡	インフルエンザ(144.3)
日南	インフルエンザ(86.5)、伝染性紅斑(3.0)
小林	インフルエンザ(156.5)、伝染性紅斑(3.0)
高鍋	インフルエンザ(68.5)、伝染性紅斑(19.0)
高千穂	インフルエンザ(35.5)
日向	インフルエンザ(113.5)、感染性胃腸炎(21.0)、伝染性紅斑(5.0)
中央	インフルエンザ(86.5)、伝染性紅斑(3.0)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・インフルエンザ(30)
- ・咽頭結膜熱(3)
- ・感染性胃腸炎(20)
- ・伝染性紅斑(2)

※流行注意報レベル基準値※

- ・水痘(1)

※流行警報レベル開始基準値、流行注意報レベル基準値は令和6年度まで運用した参考値です。

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部）

★急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）

（2025 年第 49 週：12 月 1 日～12 月 7 日搬入分）

検出病原体			検出数
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	6
	B型	ビクトリア系統	0
		山形系統	0
新型コロナウイルス			0
RSウイルス	A型		0
	B型		0
パラインフルエンザウイルス	1型		0
	2型		0
	3型		0
	4型		0
ヒトメタニューモウイルス			0
ライノウイルス			3
エンテロウイルス			0
アデノウイルス			0
検出せず※2			7
受付検体数			16

○ 急性呼吸器感染症（ARI）※¹サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※1 急性呼吸器感染症（ARI）：咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか 1 つ以上の症状を呈し、発症から 10 日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※2 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

🇯🇵 全国 2025 年第 49 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	236 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	65 例		
4類感染症	E型肝炎	15 例	A型肝炎	2 例	エムボックス	2 例
	重症熱性血小板減少症候群	2 例	チクングニア熱	1 例	つつが虫病	29 例
	デング熱	3 例	日本紅斑熱	2 例	マラリア	1 例
	レジオネラ症	35 例	レプトスピラ症	2 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	7 例
	急性脳炎	16 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	26 例
	後天性免疫不全症候群	12 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	11 例	侵襲性肺炎球菌感染症	73 例
	水痘（入院例）	7 例	梅毒	169 例	播種性クリプトコックス症	3 例
	破傷風	1 例	百日咳	498 例	麻しん	3 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数（急性呼吸器感染症除く）は前週比 90%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 94%と減少した。

インフルエンザの報告数は 148,314 人(38.5)で前週比 86%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値* (4.1)の約 9.3 倍であった。福岡県(65.6)、宮崎県(62.5)、長野県(57.0)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 7 割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は 1,436 人(0.61)で前週比 107%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.49)の約 1.2 倍であった。鹿児島県(3.5)、宮崎県(2.9)、佐賀県(2.4)からの報告が多く、年齢群別では 3 歳から 6 歳が全体の約 6 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015－2019)の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

月報告対象疾患の発生動向 <2025 年 11 月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は33人(2.5)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。また、昨年11月(3.1)の約0.8倍であった。

《疾患別》

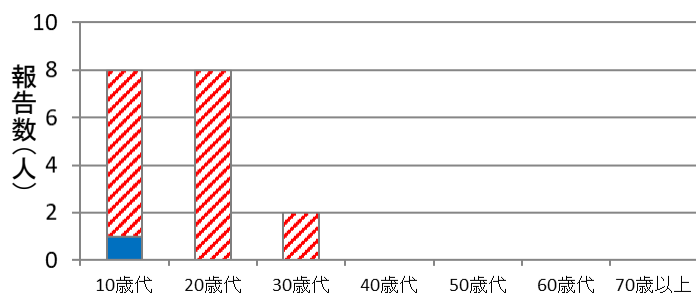
○性器クラミジア感染症：報告数18人(1.4)で、前月の約1.1倍、昨年11月の約0.9倍であった。
10歳代と20歳代がそれぞれ全体の約4割ずつを占めた。
(男性1人・女性17人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数9人(0.69)で、前月の約1.3倍、昨年11月の約0.9倍であった。
(男性2人・女性7人)

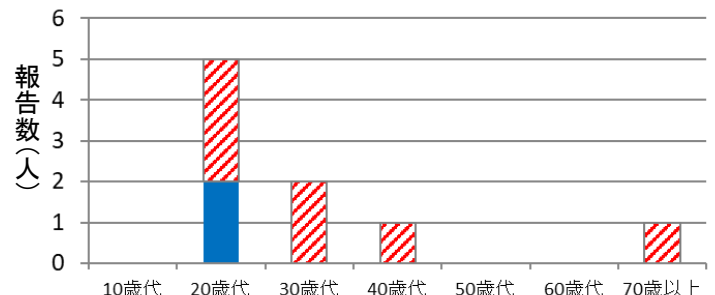
○尖圭コンジローマ：報告なし。

○淋菌感染症：報告数6人(0.46)で、前月の約1.5倍、昨年11月の約0.9倍であった。
(男性3人・女性3人)

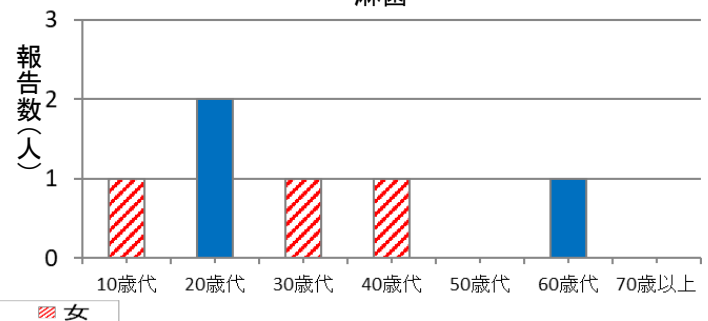
性器クラミジア



性器ヘルペス



淋菌



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,314人(4.4)で、前月比89%と減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,295人(2.3)で前月比88%、性器ヘルペスウイルス感染症904人(0.92)で前月比99%、尖圭コンジローマ472人(0.48)で前月比87%、淋菌感染症643人(0.66)で前月比85%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は17人(2.4)で、前月比65%と減少した。また、昨年11月(2.1)の約1.1倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人(2.4)で、前月の約0.7倍、昨年11月の約1.1倍であった。70歳以上が全体の約6割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,266人(2.6)で、前月比104%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,233人(2.6)で前月比104%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症24人(0.05)で前月比100%、薬剤耐性緑膿菌感染症9人(0.02)で前月比100%であった。

疾病名		第49週	第50週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1751	2798	969	302	433	173	313	137	71	227	173
	定点当り	62.54	99.93	107.67	75.50	144.33	86.50	156.50	68.50	35.50	113.50	86.50
新型コロナウイルス感染症	報告数	22	26	7	1	6		7	3	2		
	定点当り	0.79	0.93	0.78	0.25	2.00	0.00	3.50	1.50	1.00	0.00	0.00
RSウイルス感染症	報告数	15	6	4	1	1						
	定点当り	1.00	0.40	0.80	0.50	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	17	32	28	2		1		1			
	定点当り	1.13	2.13	5.60	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	62	52	25	8	5	1	6	6			1
	定点当り	4.13	3.47	5.00	4.00	2.50	1.00	6.00	6.00	0.00	0.00	1.00
感染性胃腸炎	報告数	109	115	33	9	12	9	19	3		21	9
	定点当り	7.27	7.67	6.60	4.50	6.00	9.00	19.00	3.00	0.00	21.00	9.00
水痘	報告数	4	7	7								
	定点当り	0.27	0.47	1.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	43	48	11	3	1	3	3	19		5	3
	定点当り	2.87	3.20	2.20	1.50	0.50	3.00	3.00	19.00	0.00	5.00	3.00
突発性発しん	報告数	5	6	1		3		1			1	
	定点当り	0.33	0.40	0.20	0.00	1.50	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	2										
	定点当り	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	4	14	9	4	1						
	定点当り	0.67	2.33	3.00	2.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	3	1			1						
	定点当り	0.43	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

2025年 第49週(12月1日～12月7日)

		第48週	第49週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
急性呼吸器感染症	報告数	2144	2775	815	315	278	242	249	132	112	362	270
	定点当り	76.57	99.11	90.56	78.75	92.67	121.00	124.50	66.00	56.00	181.00	135.00

ARI定点:28、小児科定点:15(ARI定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2025年 第1週～50週 保健所受理分)

2類感染症	結核	135例(5)		
	腸管出血性大腸菌感染症	34例(1)		
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	1例
	つつが虫病	18例(6)	デング熱	2例
	レジオネラ症	8例	レプトスピラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	4例	ウイルス性肝炎	2例
	急性脳炎	3例(1)	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	16例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	21例
	梅毒	115例(1)	播種性クリプトコックス症	1例
	百日咳	1,410例(3)		

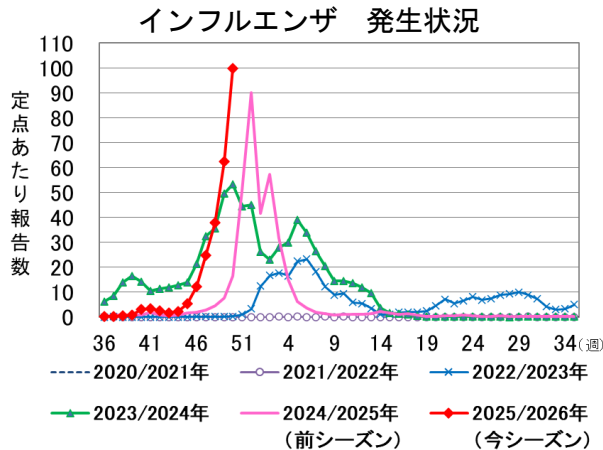
()内は今週届出分、再掲

インフルエンザ情報《県内第 50 週、全国第 49 週（再掲）》

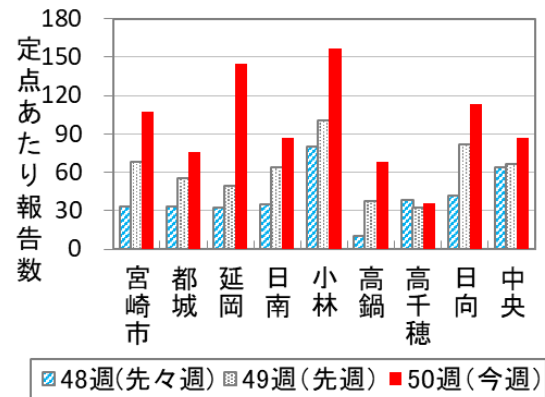
□ 県内第 50 週インフルエンザ発生動向

12 月 8 日～12 月 14 日までの 1 週間で 2,798 人(99.9)の報告があった。前週比 160%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値* (6.6) の約 15.1 倍であった。

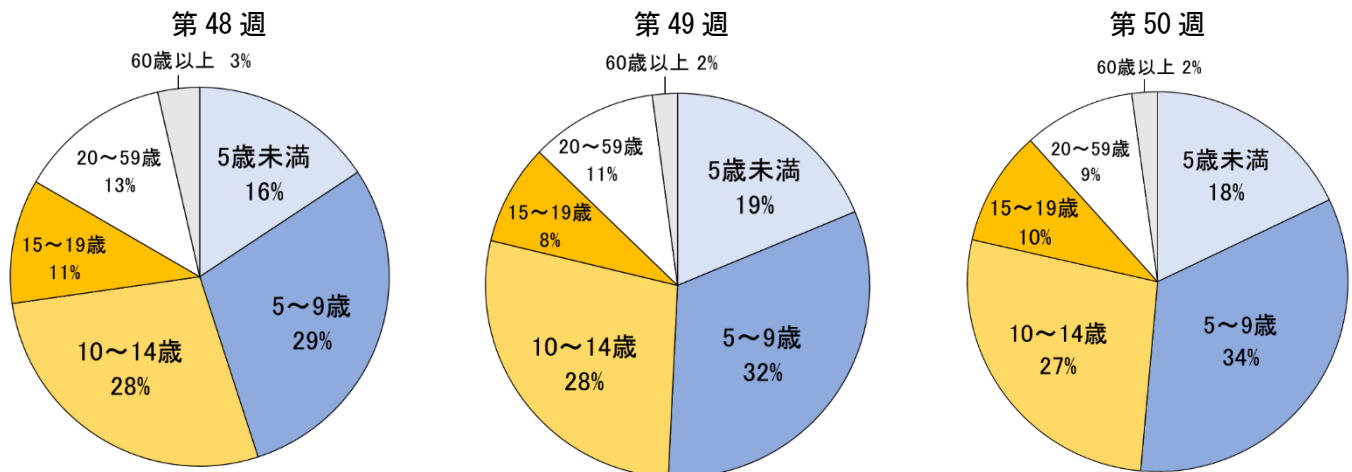
* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015－2019)の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値



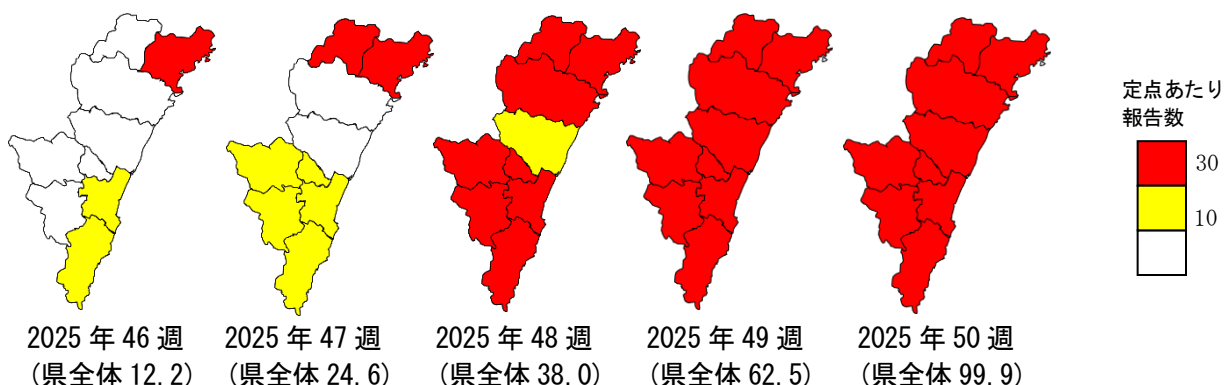
インフルエンザ 保健所別推移(3 週分)



インフルエンザ 年齢群別グラフ



保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2025 年第 46 週～2025 年第 50 週



□ 全国第 49 週インフルエンザ発生動向

12 月 1 日～12 月 7 日までの 1 週間で 148,314 人(38.5)の報告があり、前週比 86%と減少した。福岡県(65.6)、宮崎県(62.5)、長野県(57.0)からの報告が多かった。年齢群別では 5 歳未満が全体の 21%、5-9 歳が 31%、10-14 歳が 19%、15-19 歳が 7%、20-59 歳が 18%、60 歳以上が 4%であった。